

# 琉球大学学術リポジトリ

在来治療師の知識の評価に関する知識人類学的研究：  
鹿児島県与論島を中心とするユタ・ヤブなどの事例  
研究

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2020-10-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Salatkiewicz, Michal Mateusz メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/47026">http://hdl.handle.net/20.500.12000/47026</a>

様式第7号

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目

在来治療師の知識の評価に関する知識人類学的研究  
—鹿児島県与論島を中心とするユタ・ヤブなどの事例研究—

琉球大学大学院  
人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号

氏 名 Salatkiewicz Michal Mateusz

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数800字程度）

琉球弧の「ユタ研究」において「ユタ」は「職能」として捉えられてきた。だが、「ユタ研究」の先行研究を文化人類学史のパラダイム転換に即して理解しなおすと、「ユタ」という語自体は、女性の霊力・霊威に対する、学術、民間を問わず、知識の評価であるという観点が欠落していたのである。ゆえに、本研究では、間主観的にこうしたカテゴリーが構築されることに留意したフィールドワークで獲得できた事例を参照しながら、周囲の人々による評価が「ユタ」という社会的ラベルとして付与されるメカニズムの解明を試みる。よって、「ユタ」は従来述べられてきた「職能」であるのかを明らかにすることを本研究の目的とする。さらに「ユタ」は、差別語であるのかという問いに対する回答も試みる。

第1章では、本研究において取り入れる知識人類学という研究分野の出現過程を説明し、本研究を人類学の流れに位置付ける。「ユタ研究」を纏め、知識人類学的な研究の「ユタ研究」への貢献について触れる。用語を整理し、調査方法を説き、本研究の目的について述べる。

第2章では、従来の研究を元にユタ及びヤブーと称される人々の資質、成立要件、病理観、また彼らの治療師としての職掌分担、両方の関係、呼称などについて説明を行う。他の専門家、琉球弧における物理的または呪術的治療などを紹介する。

第3章では、いわゆるキー・インフォーマントとなる人物のライフヒストリー、霊的能力と霊的な事柄に関する知識、治療的知識と活動領域などを紹介しながら、その検討を試みる。

第4章では、キー・インフォーマントに対する評価に焦点を当てた事例を紹介し、こうした評価基準の基礎となる話者の知識を抽出し、その由来などを示す。評価のメカニズムの解明を試み、「ユタ」は「職能」であるのか、また差別語であるのかという問いに対する回答を行う。